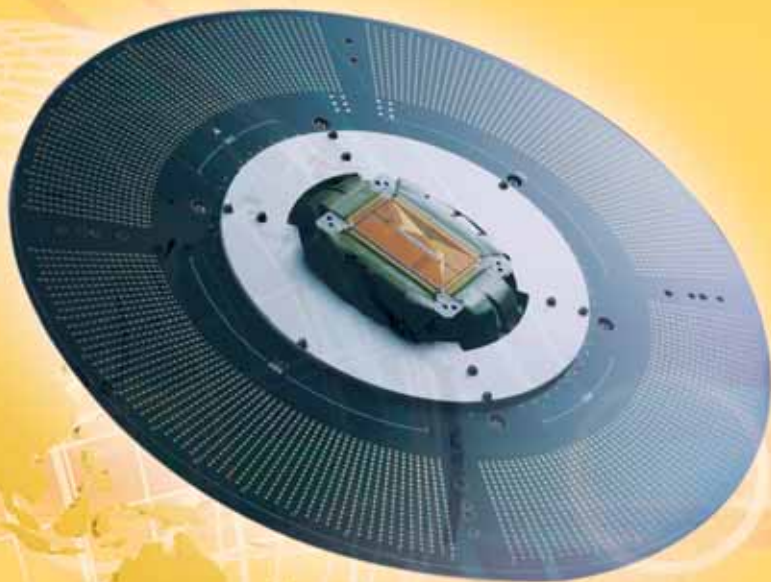


第49期 中間期のご報告 2007年4月1日から2007年9月30日まで

BUSINESS REPORT JEM TODAY



JEM 日本電子材料株式会社

証券コード:6855

厳しい状況をプラスに転換するため 全社をあげて取り組んでまいります

次世代製品移行の過渡期にあたり、中間期は厳しい状況でした

株主の皆様にはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平成20年3月期中間期(2007年4月1日～9月30日)の決算概況をご報告いたします。売上高は64億6千3百万円(前年同期比21.9%減)、営業利益4億9千3百万円(同68.1%減)、経常利益5億3千5百万円(同67.1%減)、純利益2億1千9百万円(同78.6%減)となりました。主力の半導体検査用部品関連事業は、メ

モリーIC向けのプローブカード「VCシリーズ」が市場の在庫調整や、価格競争の影響を受け売上高が減少しました。特に、当社の製品ラインナップが次世代製品に移行する過渡期にあったため、苦戦をしいられました。また、売上高の減少に伴う固定費の負担増により利益も減少する結果となりました。

受注は前年を上回る水準に回復しています

平成20年3月期通期の連結売上高は141億1千万円、経常利益14億6千万円、純利益7億3千万円を計画しています。中間期の前半は厳しい状況でしたが、7月頃からメモリーIC向け「VCシリーズ」を中心に回復基調にあり、10月の受注は全体で前年同月を上回る水準に戻っています。このほか、従来製品のなかでカンチレバー型の「CEシリーズ」の需要は依然として高く、より高品

質な針材を採用し、製品競争力を高めることなどにより売り上げ拡大に努めています。また現在、売上高比率の高い得意先が数社ございますが、これに続く顧客の開拓を進めるほか、ニーズに対応した改良製品を積極的に投入してまいります。こうした施策により、徐々に受注が上向きになりつつあると確信しています。

次世代型プローブカード「MAシリーズ」の本格展開を開始

半導体デバイスの進化と共にプローブカードの技術革新が進んでいます。当社グループでは現在、新たな技術を用いた次世代型のプローブカード「Mタイプ」の事業化を進めています。開発のスタートがやや遅れたという面はありましたが、4月に「Mタイプ」の開発・生産拠点となる合弁会社ジェムファインテックを設立し、順調に立ち上がりました。おかげさまでロジックIC向け「MAシリー

ズ」は、11月に大手半導体メーカーから新規受注が決まり、いよいよ本格的に市場に投入してまいります。また、市場規模の大きいメモリーIC向け「MCシリーズ」は、2008年3月には試作品を市場に投入する予定です。「Mタイプ」の市場は全体的に伸長が見込まれていますので、一日も早い本格的な市場参入を目指します。

株主の皆様へ

前期まで業績は右肩上がり続けてまいりましたが、今期は非常に厳しい状況にあります。ただ、この厳しい局面をプラスに転換できるよう、現在、全社をあげて取り組んでおります。既にお伝えしましたとおり、中期経営計画「Innovating Global Success!」を策定し、最終年度である2009年度に連結売上高250億円達成を目標に掲げています。そのスタートの年となる今期は、次世代型製品「Mタイプ」の本格拡大に向けた、準備期間と位置づけ、経営資源を集中してまいります。引き続き株主の皆様には、暖かく見守っていただければ幸いに存じます。配当につきましては、安定的な配当の継続として、中間期10円、期末10円の年間20円を実施する予定です。また、昨年からはじめました株主優待では、今期も熊本県産「七城のこめ」をお贈りする予定です。

今後も、株主還元には積極的に取り組んでまいります。ご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 坂根英生



プローブカード

半導体製造に欠かすことができない 当社の主力製品「プローブカード」

プローブカードとは？

近年需要が拡大している携帯音楽プレーヤーや、携帯電話、薄型テレビやデジタルカメラなど、様々な分野の製品に応用が拡大されている半導体。この半導体の検査に欠かせないのが、当社の主力製品「プローブカード」です。

当社は1970年、このプローブカードの製造を日本で初めて開始。以来順調に成長を続け、国内をはじめアジア、アメリカ、ヨーロッパの市場に製品を供給しています。プローブカードは、テストする半導体の仕様に合わせて個別に設計、製造される特注品。そのため、半導体のモデルチェンジの都度それに応じたプローブカードが新規に製造されます。

カンチレバー型プローブカード



アドバンストプローブカード



プローブカードの活躍場所 ～ウエハテスト～

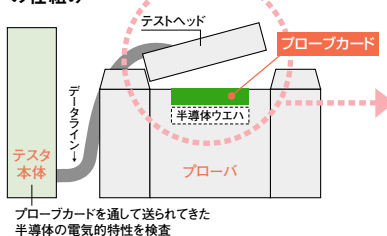
■半導体の良品・不良品を判別

プローブカードは半導体の良品・不良品を判別するテスト工程で使用されます。これはシリコンウエハ上に作られた多数の半導体チップの一個一個が正しく作動するかどうかを調べるテストであり、これを『ウエハテスト』と呼びます。

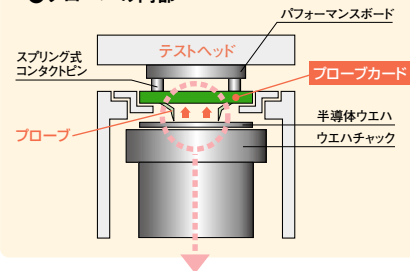
■ウエハテストの流れ

テストからの電気信号をウエハ上の半導体チップの電極（ボンディングパッド）に接続しているプローブカードのプローブ（針）を通して、電気的検査を実施。ウエハ上の半導体すべての良否を判別します。

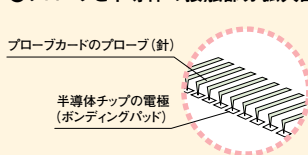
●ウエハテストの仕組み



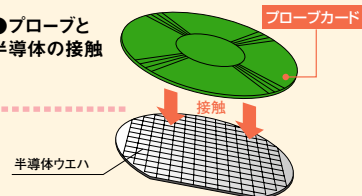
●プローバの内部



●プローブと半導体の接触部分拡大図



●プローブと半導体の接触



プローブカードの技術課題 狭ピッチ化

半導体チップの小型化

■市場要求としての小型化

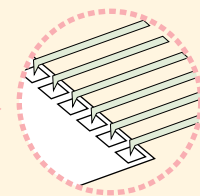
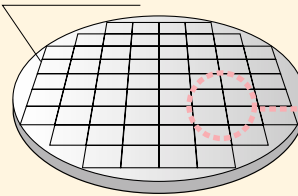
携帯電話やデジタルカメラ、更には携帯用音楽プレーヤーなど、小型の電子機器はできるだけ小さく、さらに高性能なものが求められます。限られた大きさの製品にするためには、半導体チップもより小さく、高密度なものが求められています。

■製造コスト削減のための小型化

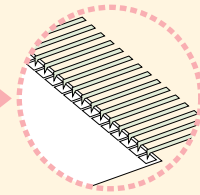
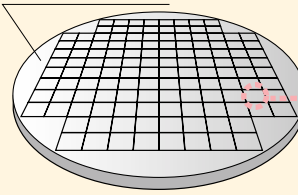
半導体はたくさんのチップをシリコンウエハ上に同時に作り込み、それを切断して作成します。1枚のウエハの同じ面積により多くのICチップが作成できると、ICチップ1個当たりのコストは大幅に削減できます。

●プローブカードの狭ピッチ化●

従来の半導体チップ



小型化した半導体チップ



このように半導体チップが小型化されると、プローブカードの針先を接触させる電極（ボンディングパッド）も非常に狭い間隔で配置されます（狭ピッチ化）。このため、プローブカードの針も細く、また非常に狭い間隔での配置が必要です。当社は「狭ピッチプローブカード」の供給により半導体の発展を支えています。

電子管部品

創業以来愛され続けるJEMの電子管部品

当社は1960年の創業以来、受信管、ブラウン管用ヒーターやカソード、フィラメントなどの製造をしてきました。ブラウン管用のヒーターは時代の流れとともに終息しましたが、その技術をもとに、各種陰極・フィラメントの他、産業用、理化学用電子機器の電子銃組立てなどの顧客ニーズに対応しています。

「Innovating Global Success! ～グローバル展開へのイノベーション～」をスローガンに 3年間の中期経営計画が2007年4月からスタートしました

Mタイプの事業化と既存製品の性能進化による製品競争力の強化に加え、海外拠点やアジア生産拠点との連携を一層高め、フィールドサポート体制を強化。業界での総合No.1を目指しています。

中期重点戦略と経過

1 Mタイプの事業化

- 2007年4月にJEMファインテック株式会社を設立
- MAシリーズ（ロジックIC向け）
LCD-Dr向けに加えSoC向けの開発加速
狭ピッチ化、生産力増強の設備投資の実施
- MCシリーズ（メモリーIC向け）の開発加速

JEMファインテック株式会社と Mタイププローブカード

プローブカードには微細化、大口径化、低針圧要求など多くの技術課題があります。従来のプローブカードは金属を針状に加工したプローブ（針）を手作業で並べて製作していましたが、MタイプはMEMS技術を応用してプローブを製作。品質の向上と同時に手作業では不可能なレベルの微細なプローブ製作も可能になります。JEMファインテックはこれらのプローブとプローブユニットの開発・生産拠点として大きな役割を担っています。

★MEMS技術・・・半導体製造工程などで用いられる
写真製版技術等を応用した微細加工技術

2 既存製品の進化

- 製品競争力強化のための性能向上・コスト競争力強化・短納期化の取り組み実施
- Vタイプ（VCシリーズ、VSシリーズ）の海外での拡販開始
- 既存製品技術を進化させた製品の開発開始

3 顧客満足度の向上

- 製品設計力強化のための増員
- フィールドサポート体制の強化

4 新事業の拡大

- VEシリーズ（CMOS向け、瞳モジュール搭載プローブカード）の拡販として大手半導体メーカーへの販売開始

TOPIC 1

Mタイププローブカード(MAシリーズ)の受注獲得

中期経営計画の最大の重点戦略は「Mタイプの事業化」ですが、このたびMタイププローブカード MAシリーズ(LCD-Dr、SoC等のロジックIC向け)において大手国内半導体メーカーより受注を獲得しました。Mタイプは先端技術であるMEMS技術を用いたプローブカードであり、この技術を用いた製品化の実績をもとに、より大きな市場であるメモリーIC市場向けの製品であるMCシリーズ(DRAM、FLASH等メモリーIC向け)の製品化を加速します。



TOPIC 2

本社工場内にクリーンルームを設置

Mタイププローブカードの事業化に向けた取り組みの一つとして、本社工場内にクリーンルームを設置。Mタイプのプローブ(針)ユニット製作は本年4月に設立したJEMファインテック株式会社にて行いますが、本社のクリーンルームでは様々な実験はもちろん、プローブユニットをプローブカードに組立てる作業、検査も行います。



TOPIC 3

ブラウン管用ヒーターの生産終了

テレビの主流がブラウン管から液晶・プラズマへと代わるに伴い、ブラウン管用ヒーターの市場は縮小。当社におきましても創業以来つくり続けてきたブラウン管用ヒーターは生産を終了しました。

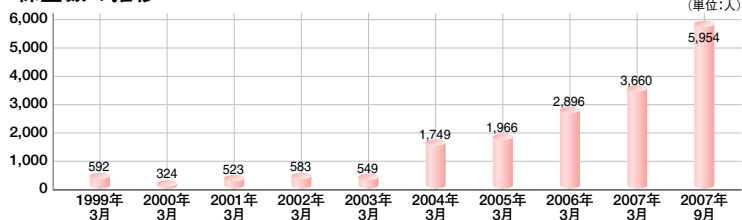


TOPIC 4

株主数の増加

当社の株主数は年々増加し、2007年9月末には5,954名となりました。これからも株主・投資家の皆様にご理解を深めていただけるよう、積極的なIR活動に取り組んでまいります。

株主数の推移



世界に広がる生産・販売拠点と研究開発のグローバルイゼーション

エレクトロニクス産業の国際化に対応して、JEMでは先駆的に海外に生産・販売拠点を設けてきました。顧客に近接する事により顧客ニーズに即応するということと、コスト競争力を実現するためのグローバルロジスティックスがこの背景です。JEMは、アメリカ・中国・台湾・韓国・ヨーロッパ・シンガポールに生産・販売拠点をもち、グローバルサポートを強力に推進しています。



国内事業所

- 本 社 〒660-0805 兵庫県尼崎市西長洲町2丁目5番13号 TEL.06-6482-2007 (代表)
- 本 社 工 場 〒660-0805 兵庫県尼崎市西長洲町2丁目5番13号
- 熊 本 工 場 〒861-1344 熊本県菊池市七城町蘇崎1396番5号
- 東 京 営 業 〒210-0005 神奈川県川崎市川崎区東田町8番 パレール三井ビルディング16F
- 静 岡 営 業 〒422-8004 静岡県静岡市駿河区国吉田2丁目1番20号
- 東 北 出 張 所 〒980-0021 宮城県仙台市青葉区中央4丁目7番17号 ベルザ仙台ビル11F

拠点クローズアップ

半導体のグローバル化と共に歩み20周年 JEM AMERICA CORP. (JEMアメリカ株式会社)

今から20年前の1987年、米国シリコンバレーにJEMアメリカ株式会社は設立されました。当時は多くの日系半導体企業が米国でのICの生産を開始した時代。当社が米国に進出した背景には、こうした日系半導体企業へのプローブカード供給という目的に加え、最新情報の入手や将来の四極体制の構築（日本・米国・欧州・アジア）を目指しての現地法人の設立もその大きな目的のひとつでした。その後、日系半導体企業の生産拠点のほとんどが競争力低下により米国から撤退。それに

付随して米国に進出した日系企業の多くが米国から撤退しましたが、JEMアメリカは現地の半導体企業にプローブカードを提供することで米国半導体企業との信頼関係を構築。現在も日本・米国・欧州・アジアとますますグローバル化する半導体業界の中においてJEMアメリカは大きな役割を果たしています。



日刊工業新聞1987年



七城のこめ

■株主優待について

当社は、株主の皆様へ日頃の感謝の気持ちを込めまして、年に1回、9月末の株主の皆様を対象に優待品をお送りしています。優待品である「七城のこめ」は、当社主力工場の所在地、熊本県菊池市七城町の名産品のひとつで、(財)日本穀物検定協会主催「米の食味ランキング」で過去2度にわたって「特A」を獲得した逸品です。昨年の優待品送付の際には多くの株主の皆様からご好評いただいたこの「七城のこめ」の新米を、今年も皆様へお送りいたします。

100株以上500株未満	2kg
500株以上1000株未満	5kg
1000株以上	10kg

なお、お届けは12月中の予定です。

業績・財務サマリー

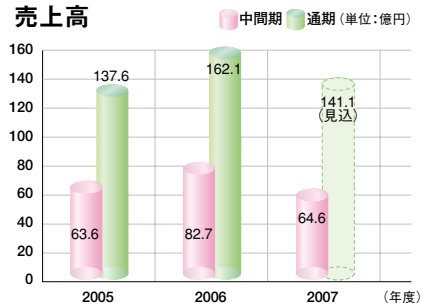
業績の推移(連結)

(単位：億円)

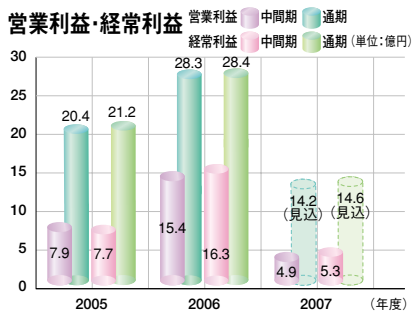
期 別 決 算 期	2005年度		2006年度		2007年度
	中間期	通期	中間期	通期	中間期
売 上 高	63.6	137.6	82.7	162.1	64.6
営 業 利 益	7.9	20.4	15.4	28.3	4.9
経 常 利 益	7.7	21.2	16.3	28.4	5.3
中 間 (当 期) 純 利 益	4.8	13.6	10.2	17.6	2.1
1株当たり中間(当期)純利益(円)	46.04	123.37	97.11	166.70	20.74
総 資 産	135.4	150.6	161.4	170.2	162.1
純 資 産	101.1	110.3	117.2	124.0	124.2
1株当たり純資産(円)	954.64	1,035.95	1,106.93	1,171.81	1,173.62

※記載金額未満は切り捨てて表示しております。

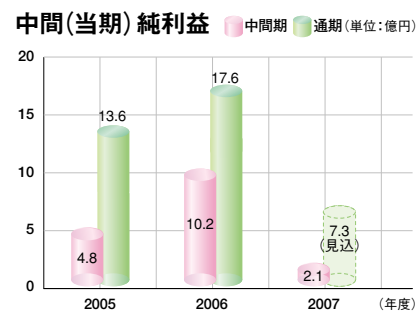
売上高



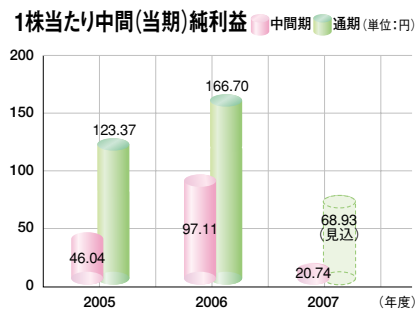
営業利益・経常利益



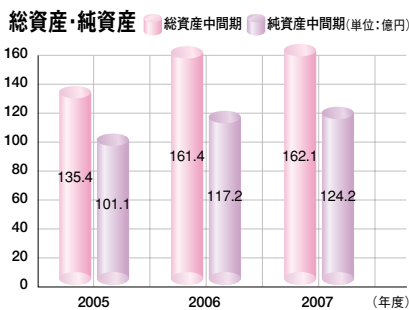
中間(当期)純利益



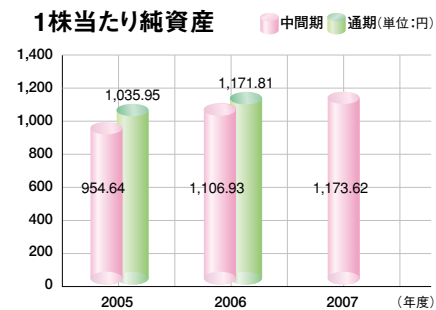
1株当たり中間(当期)純利益



総資産・純資産



1株当たり純資産



財務諸表（連結）

貸借対照表

（単位：百万円）

科 目	前中間連結会計期間末 (2006年9月30日現在)	当中間連結会計期間末 (2007年9月30日現在)
【資産の部】		
流動資産	11,408	10,912
現金及び預金	3,194	4,330
受取手形及び売掛金	6,734	5,132
有価証券	274	149
たな卸資産	992	1,125
その他	239	187
貸倒引当金	△ 26	△ 14
固定資産	4,735	5,302
有形固定資産	2,960	3,590
建物及び構築物	639	636
機械装置及び運搬具	644	1,049
工具器具備品	846	1,185
土地	455	455
その他	373	263
無形固定資産	231	357
投資その他の資産	1,543	1,353
投資有価証券	1,337	1,103
その他	207	251
貸倒引当金	△ 1	△ 0
資産合計	16,144	16,214

科 目	前中間連結会計期間末 (2006年9月30日現在)	当中間連結会計期間末 (2007年9月30日現在)
【負債の部】		
流動負債	3,795	3,199
支払手形及び買掛金	2,550	1,709
短期借入金	150	150
未払法人税等	493	153
役員賞与引当金	30	—
賞与引当金	—	4
その他	571	1,180
固定負債	625	586
役員退職慰勞引当金	440	441
その他	185	145
負債合計	4,421	3,785
【純資産の部】		
株主資本	11,635	12,274
資本金	983	983
資本剰余金	1,202	1,202
利益剰余金	9,464	10,103
自己株式	△ 14	△ 14
評価・換算差額等	86	154
その他有価証券評価差額金	100	5
為替換算調整勘定	△ 13	148
純資産合計	11,722	12,428
負債純資産合計	16,144	16,214

ポイント

■ 売上・収益動向

メモリーIC向けは昨年好調に推移した「VCシリーズ」が市場の在庫調整や価格下落の影響を受け第1四半期に大きく売上が減少、7月以降は受注が回復してきましたが第1四半期の売上減少をカバーするには至りませんでした。LCD-Dr向けやシステムLSI向けは新針材を搭載した「CEシリーズ」の市場投入と顧客の掘り起こしにより安定した受注がありました。以上の結果、当中間連結会計期間の売上高は64億6千3百万円（前中間連結会計期間比21.9%減）、利益面は売上高の減少に伴う操業度の悪化に伴い、営業利益は4億9千3百万円（同68.1%減）、経常利益は5億3千5百万円（同67.1%減）、中間純利益は2億1千9百万円（同78.6%減）となりました。

■ 財務動向

当中間連結会計期間における現金および現金同等物は仕入債務の減少額3億6百万円、法人税等の支払額5億9千1百万円、有形固定資産の取得7億4千1百万円、当社配当金の支払額2億1千1百万円等の要因による支出はあったものの、税金等調整前中間純利益5億5千9百万円に加え、売上債権の減少額6億7千3百万円、減価償却費4億3千4百万円等の収入により前中間連結会計期間に比べ、11億3千5百万円増加し、当中間連結会計期間末には41億5百万円（前中間連結会計期間比38.2%増）となりました。

財務諸表 (連結)

損益計算書

(単位：百万円)

科 目	前中間連結会計期間	当中間連結会計期間
	(自2006年4月1日 至2006年9月30日)	(自2007年4月1日 至2007年9月30日)
売上高	8,277	6,463
売上原価	4,956	4,253
売上総利益	3,320	2,209
販売費及び一般管理費	1,771	1,715
営業利益	1,549	493
営業外収益	98	50
営業外費用	17	8
経常利益	1,630	535
特別利益	20	57
特別損失	30	33
税金等調整前中間純利益	1,620	559
法人税・住民税及び事業税	580	244
法人税等調整額	11	105
少数株主損益	—	△ 10
中間純利益	1,028	219

キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	前中間連結会計期間	当中間連結会計期間
	(自2006年4月1日 至2006年9月30日)	(自2007年4月1日 至2007年9月30日)
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	250	484
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 737	△ 639
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 171	△ 201
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 17	26
V 現金及び現金同等物の増加額(△は減少額)	△ 676	△ 329
VI 現金及び現金同等物の期首残高	3,646	4,435
VII 現金及び現金同等物の中間期末残高	2,970	4,105

株主資本等変動計算書

当中間連結会計期間(自2007年4月1日 至2007年9月30日)

(単位：百万円)

	株主資本					評価・換算差額等			純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計	
2007年3月31日残高	983	1,202	10,095	△ 14	12,266	76	66	143	12,409
中間連結会計期間中の変動額									
剰余金の配当			△ 211		△ 211				△ 211
中間純利益			219		219				219
自己株式の取得				△ 0	△ 0				△ 0
株主資本以外の項目の中間連結 会計期間中の変動額(純額)						△ 70	82	11	11
中間連結会計期間中の変動額合計	—	—	7	△ 0	7	△ 70	82	11	19
2007年9月30日残高	983	1,202	10,103	△ 14	12,274	5	148	154	12,428

財務諸表(単体)

貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	前中間会計期間末 (2006年9月30日現在)	当中間会計期間末 (2007年9月30日現在)
[資産の部]		
流動資産	9,384	9,099
固定資産	4,751	5,063
有形固定資産	2,508	3,069
無形固定資産	222	346
投資その他の資産	2,021	1,647
資産合計	14,135	14,162
[負債の部]		
流動負債	3,541	2,913
固定負債	443	439
負債合計	3,985	3,353
[純資産の部]		
株主資本	10,049	10,801
資本金	983	983
資本剰余金	1,202	1,202
利益剰余金	7,878	8,630
自己株式	△ 14	△ 14
評価・換算差額等	100	8
純資産合計	10,150	10,809
負債純資産合計	14,135	14,162

損益計算書

(単位：百万円)

科 目	前中間会計期間 (自2006年4月1日 至2006年9月30日)	当中間会計期間 (自2007年4月1日 至2007年9月30日)
売上高	7,351	5,420
売上原価	4,804	3,859
売上総利益	2,546	1,561
販売費及び一般管理費	1,450	1,154
営業利益	1,096	406
営業外収益	173	232
営業外費用	10	4
経常利益	1,259	634
特別利益	-	57
特別損失	30	1
税引前中間純利益	1,228	691
法人税・住民税及び事業税	410	117
法人税等調整額	1	97
中間純利益	817	476

お知らせ ホームページのご紹介

当社ホームページでは、株主、投資家の皆様へ向けて当社の概要および業績をご説明しており、IRライブラリ・スケジュールなどの最新情報をご覧いただけます。ぜひご覧下さい。

<http://www.jem-net.co.jp>



株式の状況

株式事項 (2007年9月30日現在)

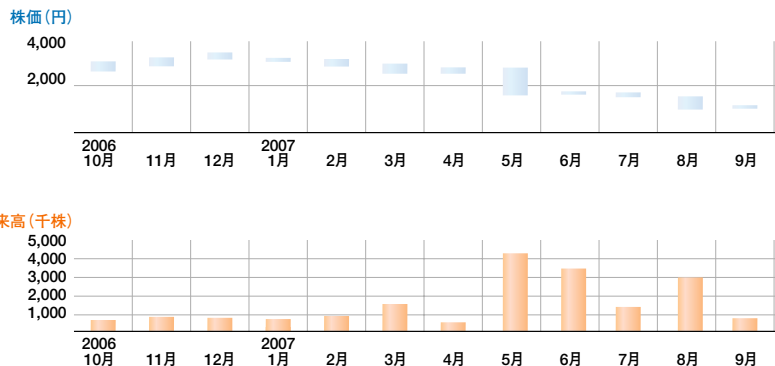
- 発行可能株式総数 40,000,000株
- 発行済株式の総数 10,604,880株
- 株主数 5,954名

大株主 (2007年9月30日現在)

株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	出資比率(%)
(有) 大久保興産	1,131	10.68
日本マスタートラスト信託銀行(株)	530	5.01
大久保昌男	457	4.32
大久保和正	435	4.11
大久保英正	406	3.83
(株)三菱東京UFJ銀行	343	3.24
古山陽一	274	2.59
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)	186	1.76
明治安田生命保険相互会社	171	1.62
日本電子材料社員持株会	150	1.42

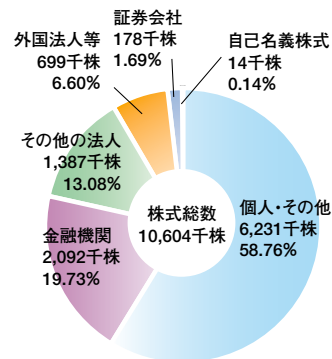
(注) 出資比率は、自己株式(14,683株)を控除して計算しております。

株価チャート

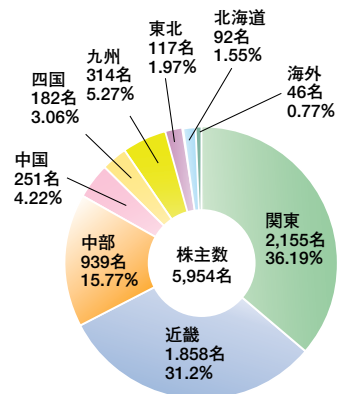


株式分布状況 (2007年9月30日現在)

所有者別株式数



地域別分布状況 (株主数)



会社概要・株主メモ

会社概要

社名	日本電子材料株式会社
英訳名	JAPAN ELECTRONIC MATERIALS CORPORATION
設立	1960年4月6日
資本金	983,100千円
事業内容	半導体検査用部品 ・カンチレバー型(Cタイプ)プローブカード プローブ(針)の形状が力学でいう片持ち梁(cantilever)の構造を持ち、一般的に使用されているタイプです。 CEシリーズ ・アドバンスト(Vタイプ)プローブカード プローブ(針)の形状が垂直型で主として半導体の高集積化・高速化対応として使用されているタイプです。 VCシリーズ(垂直接触型) VSシリーズ(垂直スプリング接触型) 電子管部品 ・各種陰極、ヒーター、フィラメント等
株式市場	東京証券取引所市場第1部
証券コード	6855

役員 (2007年9月30日現在)

取締役会長	大久保 昌 男
代表取締役社長	坂 根 英 生
常務取締役	大久保 和 正
常務取締役	石 田 進
取締役	厚 地 義 尚
取締役	古 崎 新一郎
取締役	大 澤 茂 巳
常勤監査役	幸 王 泰 久
監査役	嶋 田 義 行
監査役	豎 山 義 三

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月中
基準日	定時株主総会…3月31日(その他必要があるときはあらかじめ公告いたします。) 剰余金の配当…期末配当 3月31日・中間配当 9月30日
単元株式数	100株
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 (お問い合わせ先)	〒530-0004 大阪市北区堂島浜一丁目1番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 電話(通話料無料) ☎0120-094-777
同 取 次 所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店 野村證券株式会社 全国本支店 ○株式関係のお手続き用紙のご請求は、次の三菱UFJ信託銀行の電話およびインターネットでも24時間承っております。 電話(通話料無料) ☎0120-244-479(本店証券代行部) ☎0120-684-479(大阪証券代行部) インターネットホームページ http://www.tr.mufg.jp/daikou/
単元未満株式の買取請求取扱場所	上記株主名簿管理人の事務取扱場所および同取次所でお取扱いいたします。 なお、「株券等の保管振替制度」をご利用の株主様は、お取引証券会社等を経由してご請求ください。
公 告 方 法	日本経済新聞に掲載して行います。



<http://www.jem-net.co.jp>



古紙配合率20%の
再生紙を使用しています



環境に配慮して大豆油インキ
で印刷しています